

# 今年もあま〜い「いちごがり」！

5月8日（金）、今年もまた、「中川ふるさと保全会」の皆さんのご厚意により、小学校と幼稚園の全児童・園児たちが「いちごがり」を実施しました。

この日は、用意されたバスに乗り、それぞれのいちごハウスに移動し、いちごがりを楽しみました。子どもたちは赤く実ったいちごを一つ一つ丁寧に摘み取りました。そして、ときどきもぎたてのいちごをつまみ食いしながら、プラスチックのケースにもいっぱい摘んで帰りました。さらに、学校では皆さんが用意してくださったチョコレートやミルクでイチゴチョコフォンデュを作って食べました。いろんないちごの味わい方を体験し、子どもたちにとっては、二重の喜びとなりました。

この後、保全会の皆さんによるお米の学習をしました。「おこめのあれこれ」と題して、クイズに答えながら、お米の大切さについて学びました。

お家の皆さんも、子どもたちが摘んできたあま〜いイチゴのおいしさに、この日ばかりはほっぺが落ちそうになったことでしょうネ！中川保全会の皆さん今年もありがとうございました。



やさしく摘むんだよ！



広いイチゴハウスの中で！



お米のこと分かったかな？

イチゴにチョコをつけて味わう学生たち  
 日置市伊集院の土橋小学校



## 伊集院のイチゴ忘れないで

日置市伊集院の中川ふるさと保全会（東善一会長）は、地元の子たちにふるさとの良さを知ってほしいと、特産のイチゴを通じた触れ合いを毎年続けている。今年は8日にあり、イチゴを食べながら交流した。

土橋小学校と土橋幼稚園の60人が、4軒の農家でイチゴ狩りを体験。学校での試食は2年前のいちご大福、昨年のいちごゼキに続き、今年はイチゴのチョコフォンデュが準備された。

子供たちは溶けたチョコ

## 中川保全会 子どもたちと交流

を競うようにイチゴにつけて味わい、4年の松本瑠子さんは「甘いイチゴがもつと甘くなっておいしい」と喜んだ。

米農家も多い保全会からは米についての話もあり、生産する上で大切なことや消費が減っている現状などを紹介した。東会長（62）は「ここでしかできない体験をすれば、将来思い出してくれるだろう。この地を離れても、いつか帰ってきてくれることを期待してやっていると話した。」

（江田裕樹）

南日本新聞5月16日（土）より

# 自分の命は自分で守ります！

5月1日（金）に不審者対応の避難訓練、14日（木）に交通安全教室をそれぞれ実施しました。学校では毎年、防犯に関する危機管理や、交通安全に対する意識の維持・向上を目指して、訓練や学習を実施しています。県内外を問わず、子どもの



いつでも駆け込んで！

交通事故が連日のように報道され、後を絶ちません。また、不審者による被害も少なくありません。子どもたちには、ぜひ「自分の命は自分で守る」という決意で日頃から防犯・安全への意識を持ち続けてほしいと思います。そして保護者や地域の皆様方には、今後とも子どもたちの安全を見守っていただきますようお願いいたします。



自分の目で確かめて！

## 子どもたちによみ聞かせ！

今年度も「ひだまりの会」の皆さんによる本の読み聞かせが始まりました。月に1〜2回程度、ボランティアの皆さんが、子どもたちに毎回ステキなお話を聞かせてくださっています。ときには、指ゲームやクイズなど楽しい遊びや話題も提供していただきます。子どもたちも1年生から6年生まで、毎回楽しみにしています。

さて、ひだまりの会では、現在この会に入ってくださいる保護者を募集しています。みなさんも、ぜひ一緒に活動してみませんか。



子どもたちもお話に夢中！

## 各自治会で運動会

ゴールデンウィーク期間中（下土橋は4月5日：雨天のため昼食会）各自治会で恒例の運動会が開催されました。今年は雨が多く、外で実施できなかったところも多かったですが、室内でゲームをしたり、競技を簡素化したりして各自治会で工夫して実施されていました。子どもたちもゲームや抽選会にハラハラドキドキしながら、地域の皆さんと楽しく交流を深めることができました。



パン食い競争（上土橋）